



株式会社 W TOKYO(証券コード:9159)

2024年6月期 通期決算説明資料

2024年8月14日



本決算発表のサマリー

1 2024年6月期 通期業績概要

売上高	3,957百万円（前期比+ 9.4% 業績予想比+1.4%）
営業利益	508百万円（前期比▲21.3% 業績予想比▲24.3%）
当期純利益	327百万円（前期比▲19.4% 業績予想比▲25.0%）

2 ビジネスハイライト

- TGC東京開催・TGC地方開催は計画通りの実施
- ファッションショーにとどまらない地方創生プロジェクトが一層活況に
- 合併会社 YOAKE entertainment への出資。エンターテインメント集団によるWeb3を活用した新たな事業成功に向けて企画推進中

3 2025年6月期 通期業績予想

売上高	4,192百万円（当期実績比+5.9%）
営業利益	557百万円（当期実績比+9.7%）
当期純利益	358百万円（当期実績比+9.5%）

1. 業績概要

2. ビジネスハイライト

3. 2025年6月期業績予想

2024年6月期 通期業績概要

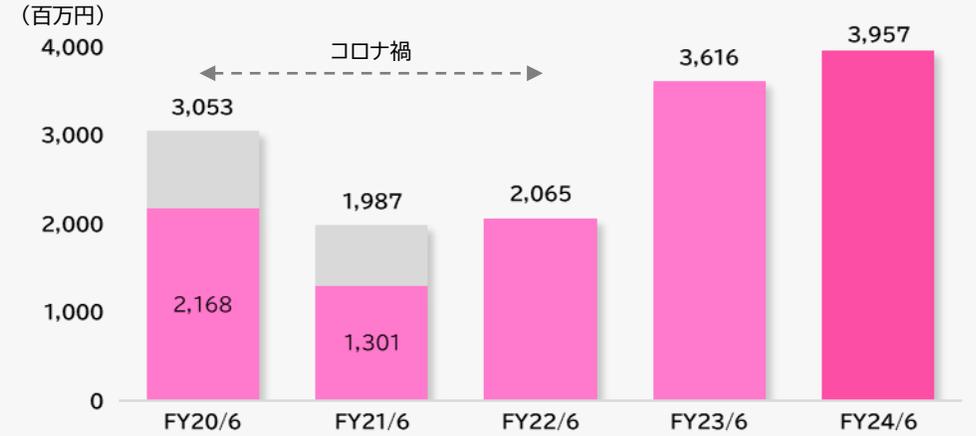
前期比売上高は9.4%増加したが、制作業界の人手不足や人件費上昇、物価高騰の影響により売上総利益が4.5%減少。結果、営業利益以下は業績予想に未達となったが、当期純利益率は8%強と、引き続き高い利益率を維持。

● 業績サマリー

(百万円)	FY2023/6	FY2024/6				
	実績	実績	前期比	業績予想	達成率	
売上高	3,616	3,957	341	9.4%	3,901	101.4%
売上総利益	1,588	1,516	-71	-4.5%	-	-
対売上高%	43.9%	38.3%				
販管費	942	1,008	65	7.0%	-	-
対売上高%	26.1%	25.5%				
営業利益	645	508	-137	-21.3%	670	75.7%
対売上高%	17.8%	12.8%				
経常利益	620	496	-124	-20.0%	662	74.9%
対売上高%	17.2%	12.5%				
当期純利益	406	327	-78	-19.4%	436	75.0%
対売上高%	11.2%	8.3%				
(参考)						
調整後営業利益*	809	671	-137	-17.0%	834	80.5%
対売上高%	22.4%	17.0%				
調整後当期純利益*	542	463	-78	-14.5%	573	80.8%
対売上高%	15.0%	11.7%				

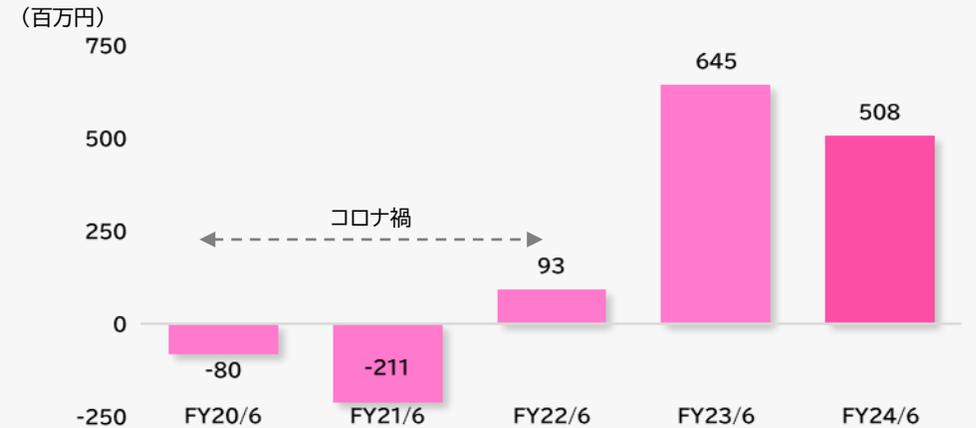
* のれん償却額及び商標権償却額を調整した営業利益及び当期純利益。

● 売上高の推移



注 FY21/6までは、アフィリエイト広告売上等で総額表示を採用していたため FY22/6以降の売上高と同一会計基準での比較は、ピンク色の売上高をご参照ください。

● 営業利益の推移

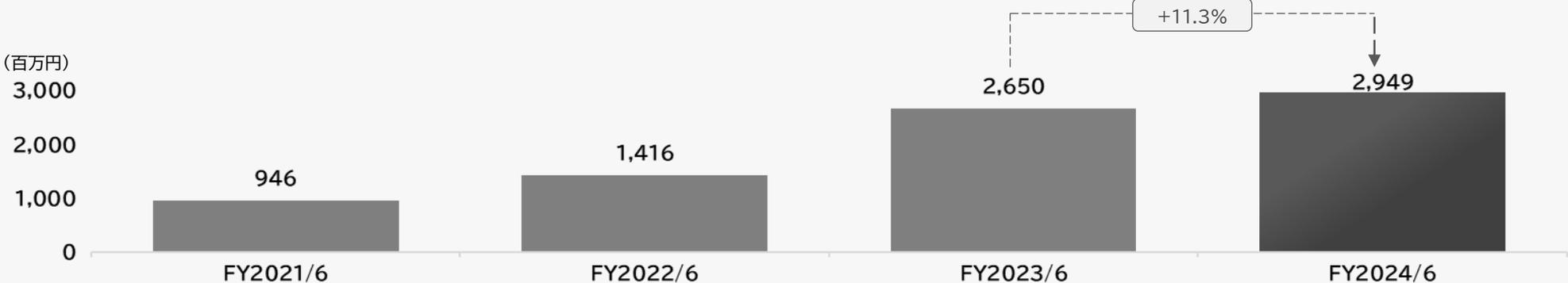


事業領域別売上高の推移

主力のTGCプロデュース領域、及びコンテンツプロデュース・ブランディング領域は前期の売上高に対し成長が継続。

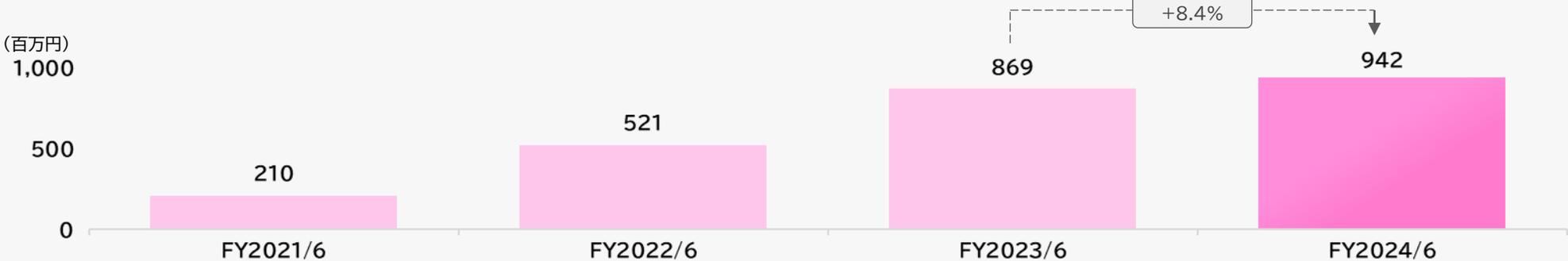
TGCプロデュース領域

TGC東京開催、
TGC地方開催、
シティプロモーション、
その他プロモーション等
発信力を強みとする領域



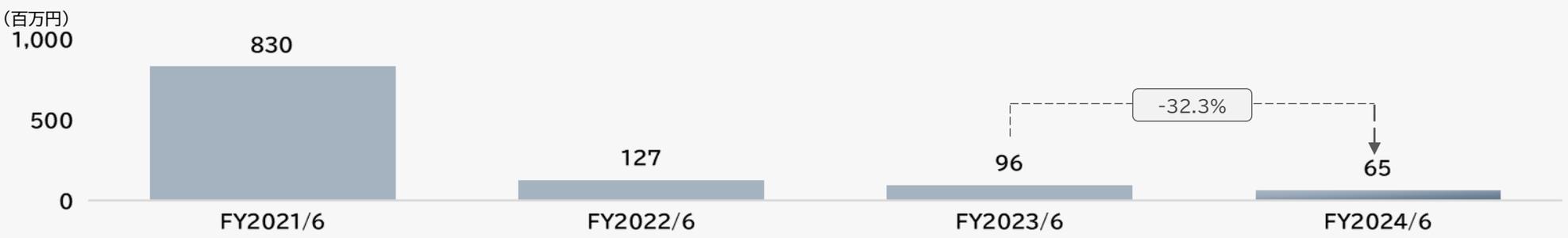
**コンテンツプロデュース・
ブランディング領域**

TGCブランドを活かした
ロイヤリティビジネスや
プロデュースノウハウを活かした
新たな価値創造領域



デジタル広告領域*

アフィリエイト広告
TGC公式メディア運営等の領域

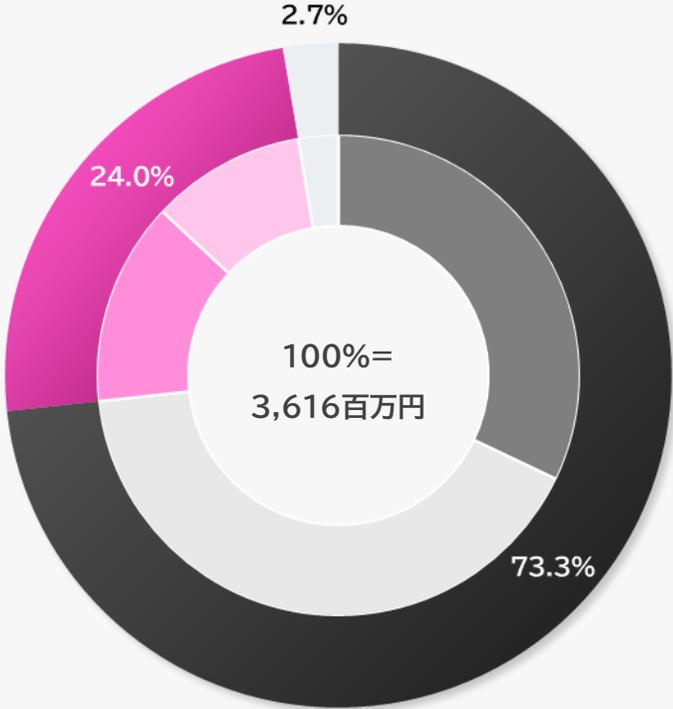


* FY2021/6は収益認識会計基準の適用前であり、アフィリエイト広告売上等で総額表示されている。

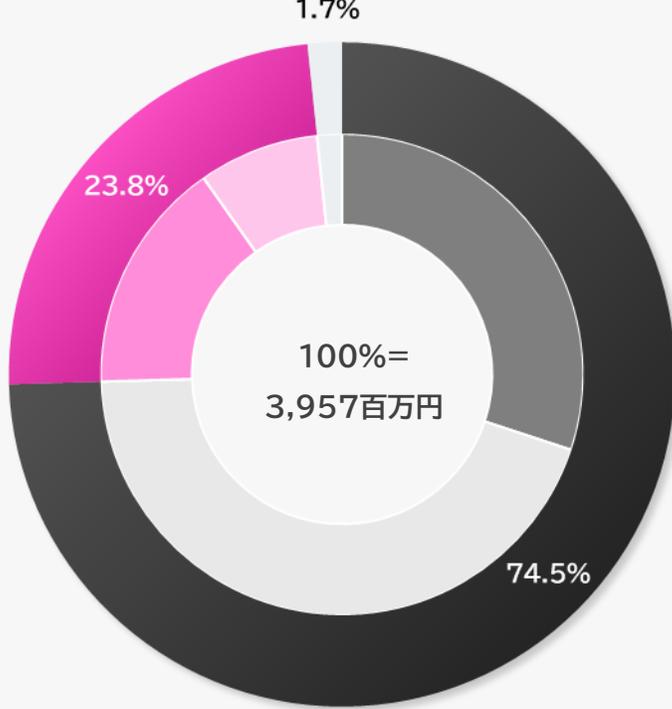
事業領域別売上構成比の変化

TGCプロデュース領域が全体の多くを占める売上高の構成には引き続き大きな変化はなし。

● FY2023/6の状況



● FY2024/6の状況



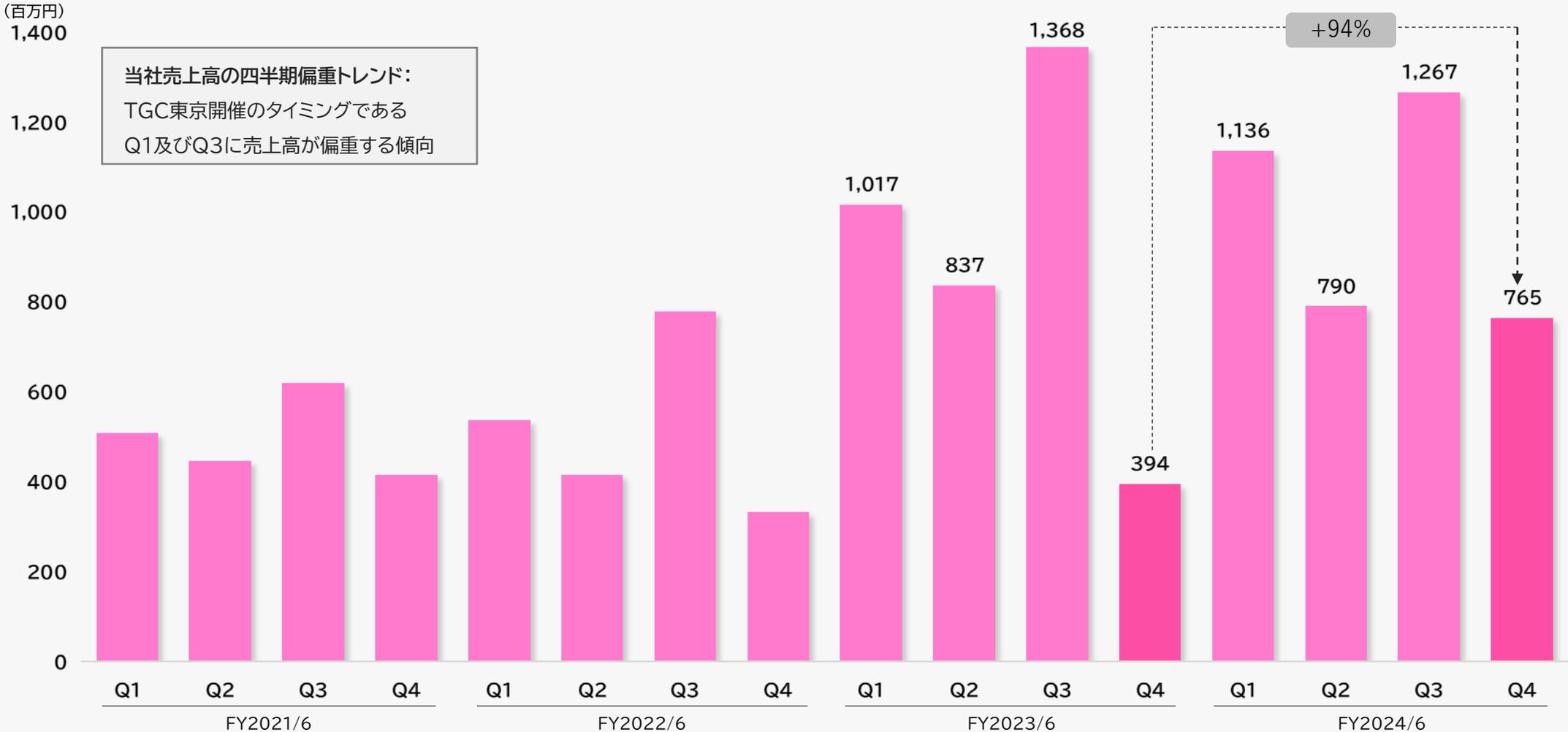
売上高全体は
約9.4%の成長

- TGCプロデュース領域
- コンテンツプロデュース・ブランディング領域
- デジタル広告領域
- TGC東京開催
- アーティストコラボレーション**
- その他ブランド展開***
- 地方創生プロジェクト・その他プロモーション*

* TGC地方開催やシティプロモーション、その他プロモーション受託等に係る売上。
 ** アーティスト・タレントのキャスティングとクリエイティブ制作等を行い、クライアントのサービス・商材のブランディングを担うことによる売上。
 *** TGCブランドを活用した売上(ブランドロイヤリティ受領ビジネス、TGC AUDITION、TGC SCHOOL、TGC公式ファンクラブTGC Premiumの会員収入等)。

売上高の四半期推移

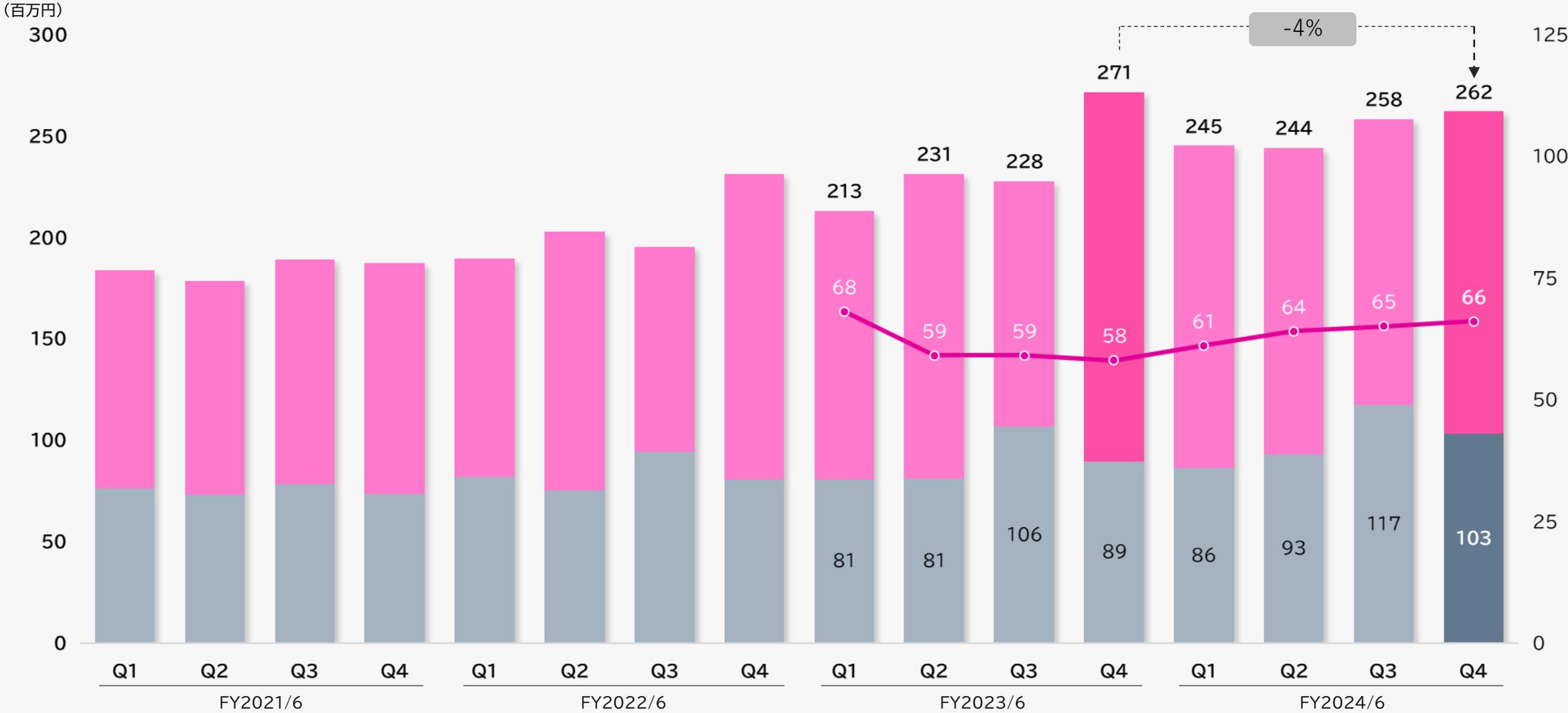
主としてTGC熊本開催の寄与により、Q4の売上高は前年同期対比約94%の増。



注 FY2021/6は収益認識会計基準の適用前であり、アフィリエイト売上等が総額表示されている。
FY2021/6、FY2022/6の四半期単位の数字は監査法人の監査対象外であり、あくまでも参考値として掲示。

販管費の四半期推移

販管費の総額に大きな変化はないが、従業員数の緩やかな増加に連動し、人件費は増大。

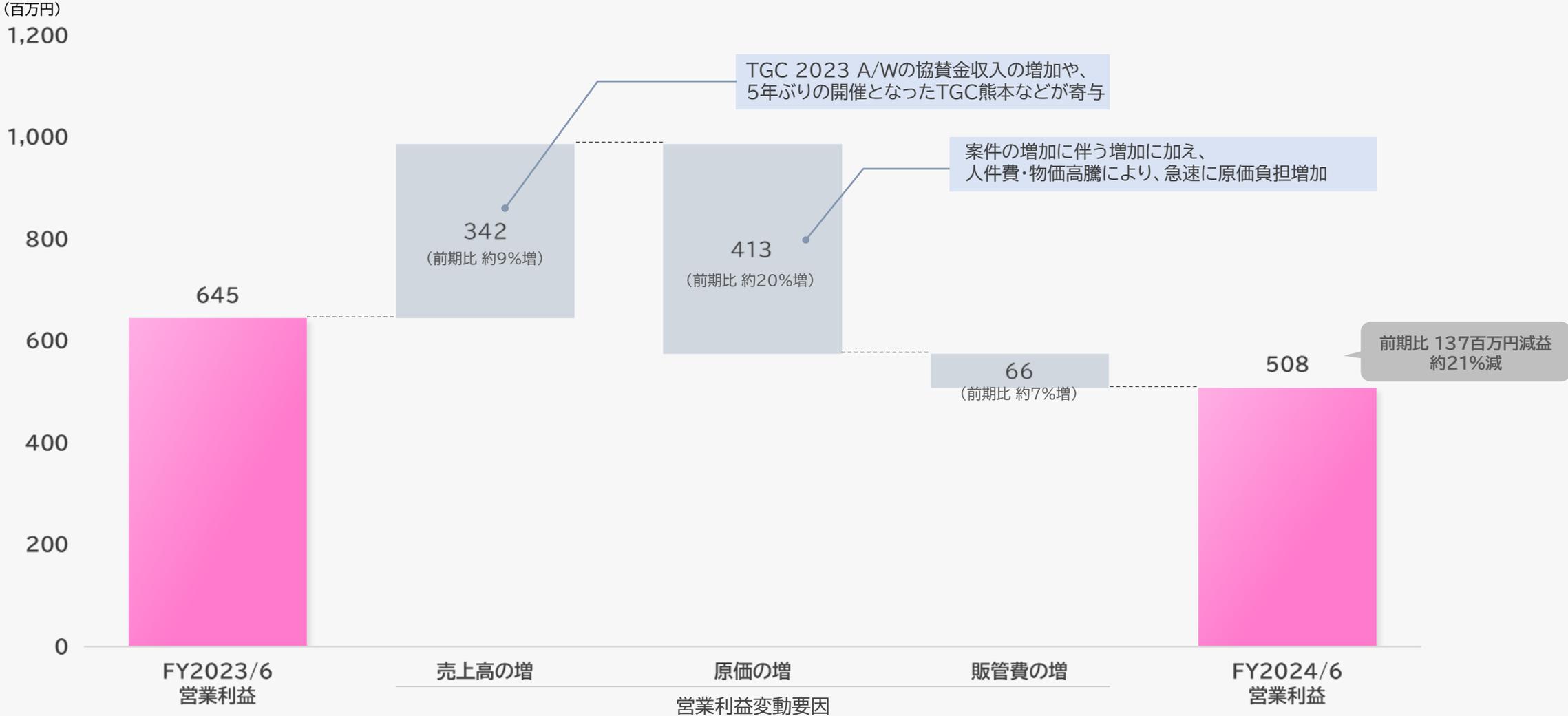


* 役員報酬、給料手当、賞与、法定福利費の合計。

** 正社員、契約社員、アルバイトの合計。

前期からの営業利益変動分析

FY2023/6対比、約9%の売上高増を実現するも、原価率の増大を主因に営業利益は約21%減。



貸借対照表の状況

高いキャッシュ・フロー創出力に裏打ちされ、バランスシートは引き続き強固な健全性を維持。今後の成長投資余力は大きい。

(百万円)	FY2023/6 末時点	FY2024/6 末時点	増減
流動資産合計	2,296	2,431	135
現預金	1,971	1,930 ^A	-40
固定資産合計	826	666	-160
のれん	230	157 ^B	-72
商標権	452	362	-90
資産合計	3,122	3,098	-24
流動負債合計	859	662	-197
1年内返済予定の長期借入金	146	112	-34
固定負債合計	992	783 ^C	-208
長期借入金	987	783	-203
負債合計	1,852	1,446	-405
純資産合計	1,270	1,652 ^D	381

- A** 前期末より40百万円減少。
前期法人税確定納付189百万円及び当期中間納付95百万円等により営業CFは前期比マイナスとなるも、引き続き潤沢な成長投資余力あり
- B** 10年定額償却により減少。減損の兆候なし。
(参考) 償却終了時期
のれん:2026年8月
商標権:2028年6月
- C** 自己資金で事業運営できており、新規借入はなく、約定返済に加え、一部繰上返済により更に減少
(参考) 借入金残高
2023/6末:1,133百万円
2024/6末:895百万円
- D** 当期純利益の確保により純資産は一層厚みを増している
(参考) 自己資本比率
2023/6末:約40.7%
2024/6末:約53.3%

1. 業績概要

2. ビジネスハイライト

3. 2025年6月期業績予想

2024年6月期におけるTOKYO GIRLS COLLECTION・地方創生プロジェクト

TGC地方開催やシティプロモーション開催実績は2023年6月期よりも増加しており、TGCプロデュース領域は着実に成長。ファッションショー以外でも、SDGsブランディング、商品プロモーション、店舗誘致など様々な形で地方創生に貢献。

TGC 23 A/W



2023/9

TGC 24 S/S



2024/3

2023/10

TGC 北九州 2023



2024/1

TGC しずおか 2024



2024/2

TGC 和歌山 2024



2024/4

TGC 熊本 2024



2023/10
TGC FES 山梨 2023



2023/11
BISHU COLLECTION



2024/6
TGC teen ICHINOSEKI 2024

その他ビジネスハイライト

既存ビジネスの横展開・他者との連携や出資等、中長期的成長を目指すための強固な土台づくりをした1年となった。

● 年間を通じた取引

- ブランドロイヤリティを受領する売上は継続的に収益貢献。特にDAISOとのコラボアイテムは高単価商品までプロデュースし、売上増。
- キャスティング・クリエイティブ制作を組み合わせ顧客の商材のブランディングを行う案件も継続取引が増えた。同顧客に対し、TVCM枠販売や広告運用等、受注するプロモーションの横の広がりが見られる。

● 中長期的な発展に寄与する連携や出資

- 静岡銀行、七十七銀行、ひろぎんホールディングス、山梨中央銀行と地方創生推進の連携協定(2023/9)。連携を通じた様々なプロジェクトを既にローンチ。
- 合併会社YOAKE entertainmentの設立・出資(2023/12)。スキーム・コンテンツ企画検討進行中。



● 将来に向けた人的資本投資

- 従業員の給与ベースアップ実行。既存従業員の給与は前期比平均8%程度上昇。
- 中途採用・新卒採用により正社員は順調に増加(2023/6末 45名→2024/6末 52名)。

1. 業績概要

2. ビジネスハイライト

3. 2025年6月期業績予想

2025年6月期 通期業績予想

2025年6月期も案件増加により売上増加の見込み。コスト上昇のバランスを図りながら当期純利益358百万円(2024年6月期から31百万円、9.5%増)を予想。

(単位:百万円)	2024年6月期	2025年6月期		
	実績	予想	対2024年6月期	
売上高	3,957	4,192	+234	+5.9%
営業利益	508	557	+49	+9.7%
(営業利益率%)	12.8%	13.3%		
経常利益	496	549	+53	+10.8%
(経常利益率%)	12.5%	13.1%		
当期純利益	327	358	+31	+9.5%
(当期純利益率%)	8.3%	8.6%		
一株当たり当期純利益	123.20	132.50	+9.30	+7.5%
(ご参考)				
調整後営業利益	671	720	+48	+7.3%
(対売上高%)	17.0%	17.2%		
調整後当期純利益	463	494	+30	+6.6%
(対売上高%)	11.7%	11.8%		

● 事業の前提

- TGC東京開催は年2回開催
- TGC地方開催は年3回以上開催(以下、公表情報のみ)
 - ↳2024年7月:TGC 松山 2024
 - ↳2024年10月:TGC 北九州 2024
 - ↳2025年1月:TGC しずおか 2025
- 地銀との連携協定の具体的取組みとして新たなシティプロモーション
 - ↳EMPOWER MIYAGI 2024 powered by TGC(仙台市 他)
 - ↳GOTEMBA MIRAI PROJECT 2024 powered by TGC(御殿場市)
- コスト上昇傾向を前提としつつ、サービスの付加価値を向上させ、利益率維持・向上のためのサービスの価格改定やメニュー設計を想定

● 事業成長に向けたリソース確保の考え方

- W TOKYO=プロデューサー集団
企画営業・プロデュース機能を中心に人材採用する方針は従来通り
- TGCを活用した学生インターンからの新卒採用に一層注力
- 制作面・専門分野は各種協力先へアウトソーシングすることで、コスト面・品質面・スピード面のバランスを図る